令和６年度　江戸川区立江戸川小学校　人権教育　年間指導計画（第１学年）

年間指導計画作成のための留意点（東京都教育委員会発行「『人権教育プログラム（学校教育編）』ｐ14 人権教育の年間指導計画（例）」を必ず参照し作成すること）

○　教科等の目標や内容を踏まえ、その単元や題材全体に関わる人権教育の視点を明確にした上で、指導計画に位置付ける。
○　普遍的な視点からの取組と個別的な視点からの取組を指導計画に位置付ける。
○　各教科・読書科、特別の教科　道徳、総合的な学習の時間、特別活動等における内容について、個別的な視点からの取組を中心に関連を明確にする。
○　児童・生徒が主体的に学習活動に参加し、互いに協力し合って学習に取組めるよう、協力的、参加的、体験的な学習を位置付ける。

	４月	５月	６月	７月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
学級経営	人権教育の目標を踏まえて学級目標を設定する。	自分の大切さを認識することを中心とした指導 児童相互の関係を把握する。	児童理解を深め、教員と児童、児童相互の望ましい人間関係を築く。		他の人の大切さを認めることを中心とした指導 一人一人の個性や能力が発揮できる場や機会を設定することにより、学級の一員として認められているという自己肯定感をもてるようにする。				互いの大切さを認め、助け合えることを中心とした指導 １年間の学校生活を振り返らせ、自己の成長を確かめる。		
各教科・読書科	国語：「おはなしききたいな」「なんて　いおうかな」発表し合うことを通して表現する力や伝え合う力を身に付けさせる。	国語：「どうぞよろしく」一人一人に名前があり大切にされていることを理解させる。	国語：「おおきな　かぶ」自分一人ではなく、いろいろな人や動物の協力で成し遂げられることがあることに気付く。 生活：生き物の飼育や栽培を通して命を大切にしていく態度を身に付けさせる。「同和問題」		国語：「しらせたいな、見せたいな」自分のことを相手にも伝わるように詳しく話す力を養う。		生活：「じぶんで　できるよ」自分でできることをみつけて、生活を豊かにしようとする態度を育てる。		生活：「もう　すぐ　２ねんせい」自分でできるようになったことをみつけて、生活を豊かにしようとする態度を育てる。	国語：「ずうっと、ずっと、大すきだよ」生命を尊重する心を育てる題材読んで、感じたことを伝え合う力を養う。	
特別の教科　道徳	「特別の教科　道徳」を通して、自由・責任、親切・思いやり、友情・信頼、感謝、生命の尊さ、公正・公平、社会正義、家族愛、勤労、国際理解などを身につけさせる。 「なかなおり」：友達とのやりとりを体験的に学ぶことをとおして、素直に謝ることの大切さに気づき、友達とよりよい人間関係を築こうとする判断力を育てる。						だめ！：積極的に行うべきよいことと、してはならないことを判断する力を養い、よいと思ったことをすすんで行おうとする意識を高める。「子ども」		ハムスターの赤ちゃん：ハムスターの誕生と成長を題材に，生命の不思議さとその重みについて考え，生きていることに喜びを見い出し，生命を大切にしようとする実践意欲と態度を育てる。		
総合的な学習の時間											
特別活動	学活：学級や自分の目標を考える。 １年生を迎える会 「なかよし班」　異学年交流を深め、相手の立場に立って思いやる態度を身に付ける。　○なかよし班遊び　○えどスポ（運動会）　○CBC（キャッチボールクラシック）　○お別れ給食	学活：楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任などについて考え、信頼し支え合って実践させる。			学活：話し合い活動を通して、一人一人の意見や考えを尊重し合う態度を身に付けさせる。		えどフェス（展覧会）		学活：楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任などについて考え、信頼し支え合って実践させる。		
その他	地域訪問：家庭との連絡を密にし、児童一人一人の実態を把握する。		あいさつ運動(通年：あいさつを通して、温かい人間関係を養う。	個人面談等：家庭との連絡を密にし、児童一人一人の実態を把握する。			ふれあい月間 いじめ防止週間				

「　　」＝個別的な視点からの取組（末尾の「　」内は人権課題）　⟺＝関連的な指導　▭＝多様性を理解し、尊重し合う態度を育成することを重点とした指導。

令和６年度　江戸川区立江戸川小学校　人権教育　年間指導計画（第２学年）

年間指導計画作成のための留意点（東京都教育委員会発行「『人権教育プログラム（学校教育編）』ｐ14 人権教育の年間指導計画（例）」を必ず参照し作成すること）

○　教科等の目標や内容を踏まえ、その単元や題材全体に関わる人権教育の視点を明確にした上で、指導計画に位置付ける。
○　普遍的な視点からの取組と個別的な視点からの取組を指導計画に位置付ける。
○　各教科・読書科、特別の教科　道徳、総合的な学習の時間、特別活動等における内容について、個別的な視点からの取組を中心に関連を明確にする。
○　児童・生徒が主体的に学習活動に参加し、互いに協力し合って学習に取組めるよう、協力的、参加的、体験的な学習を位置付ける。

	４月	５月	６月	７月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
学級経営	人権教育の目標を踏まえて学級目標を設定する。 児童相互の関係を把握する。	自分の大切さを認識することを中心とした指導 児童理解を、児童相互の望ましい人間関係を築き、児童の学校生活への適応を図る。			他の人の大切さを認めることを中心とした指導 一人一人の個性や能力が発揮できる場や機会を設定することにより、学級の一員として認められているという安心感をもてるようにする。				互いの大切さを認め、助け合えることを中心とした指導 １年間の学校生活を振り返らせ、自己の成長を確かめる。		
各教科・読書科	国語：「はるねこ」発表し合うことを通して表現する力や伝え合う力を身に付けさせる。 生活：「ぐんぐんそだてわたしの野さい」野菜を栽培することで、植物にも命が宿っていることを実感させる。。	体育：「リレー」ルールを守り、協力しながら運動する経験を通して、公平・協力の態度を身につける。	国語：「きつねのおきゃくさま」きつねの気持ちの変化を読み取る。 生活：どきどきわくわくまちたんけん」自分の地域を実際に歩いて観察し、まちの様子に気付き、特徴を知る。	国語：「言葉のひろば③うれしくなる言葉」クラスでうれしくなる言葉を見つけさせ、普段の言葉遣いを意識させる。また、いじめにつながるような言葉を使っていないか気付かせる。「子ども」	国語：「さけが大きくなるまで」サケの成長を知るとともに、自分や友達の成長にも長い年月をかけて成長していることに気付く。 体育：ゲームやおにあそびの活動を通して、協力や公正に活動する力を身に付けさせる。		国語：「ないた赤おに」見た目などの違いから差別されている鬼の存在を知るとともに、自身に振り返る。「子ども」または「外国人」「障害者」	国語：「おもちゃのせつめい書を書こう」友達との交流を扱った作品を読み自己と他者を理解する大切さを理解させる。	国語：「アレクサンダとぜんまいねずみ」ねずみのアレクサンダとぜんまいねずみのウィリーの気持ちの変化を見つけ、クラス全体で伝え合う力を養う。 生活：「あしたへジャンプ」生まれてから今までの自分の成長に気付くとともに、その都度家族や友人など支えてくれた人がいることにも気付き、これからの生活を豊かにしようとする態度を育てる。		
特別の教科　道徳	「特別の教科　道徳」を通して、自由・責任、親切・思いやり、友情・信頼、感謝、生命の尊さ、公正・公平、社会正義、家族愛、勤労、国際理解などを身につけさせる。 「ごみすて」：一人になったかすみが、ごみ捨てに行く二人の後ろ姿を見ながらどんなことを考えたのかについて話し合うことをとおして、人によって態度を変えないことの大切さに気づき、誰に対しても公正・公平な態度で接しようとする実践意欲と態度を育てる。「子ども」					「くらべてみよう　日本とせかい」：日本と世界の違いにふれ、他国に対する理解や親しみをもつことのよさに気づき、違いを差別せずに認める気持ちを育み、日本と世界ではどんな違いがあるのか調べてみようとする実践意欲と態度を育てる。「外国人」			「しあわせの王子」：王子とつばめの気持ちや行動について考えることをとおして、美しいものや美しい心についての理解を深め、美しいものや気高いものに感動する心情を育てる。		
総合的な学習の時間											
特別活動	学活：学級や自分の目標を考える。 １年生を迎える会	学活：楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任などについて考え、信頼し支え合って実践させる。			学活：話し合い活動を通して、一人一人の意見や考えを尊重し合う態度を身に付けさせる。		えどフェス（音楽会）		学活：楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任などについて考え、信頼し支え合って実践させる。		
	「なかよし班」　異学年交流を深め、相手の立場に立って思いやる態度を身に付ける。　○なかよし班遊び　○えどスポ（運動会）　○CBC（キャッチボールクラシック）　○お別れ給食										
その他	地域訪問：家庭との連絡を密にし、児童一人一人の実態を把握する。 いじめ防止週間	あいさつ運動週年：あいさつを通して、温かい人間関係を養う。		個人面談等：家庭との連絡を密にし、児童一人一人の実態を把握する。			ふれあい月間 いじめ防止週間				

「　　」＝個別的な視点からの取組（末尾の「　」内は人権課題）　⟺＝関連的な指導　▭＝多様性を理解し、尊重し合う態度を育成することを重点とした指導。

令和６年度　江戸川区立江戸川小学校　人権教育　年間指導計画（第３学年）

年間指導計画作成のための留意点（東京都教育委員会発行「『人権教育プログラム（学校教育編）』ｐ14 人権教育の年間指導計画（例）」を必ず参照し作成すること）

○　教科等の目標や内容を踏まえ、その単元や題材全体に関わる人権教育の視点を明確にした上で、指導計画に位置付ける。
○　普遍的な視点からの取組と個別的な視点からの取組を指導計画に位置付ける。
○　各教科・読書科、特別の教科　道徳、総合的な学習の時間、特別活動等における内容について、個別的な視点からの取組を中心に関連を明確にする。
○　児童・生徒が主体的に学習活動に参加し、互いに協力し合って学習に取組めるよう、協力的、参加的、体験的な学習を位置付ける。

	４月	５月	６月	７月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
学級経営	人権教育の目標を踏まえて学級目標を設定する。 児童相互の関係を把握する。	自分の大切さを認識することを中心とした指導 児童理解を、児童相互の望ましい人間関係を築き、児童の学校生活への適応を図る。			他の人の大切さを認めることを中心とした指導 一人一人の個性や能力が発揮できる場や機会を設定することにより、学級の一員として認められているという安心感をもてるようにする。				互いの大切さを認め、助け合えることを中心とした指導 １年間の学校生活を振り返らせ、自己の成長を確かめる。		
各教科・読書科	国語：「もっと知りたい、友だちのこと」相手のことを考えて、接する態度を育てる。 体育：「リレー」ルールを守り、協力しながら運動する経験を通して、公平・協力の態度を身につける。		国語：「仕事のくふう、見つけたよ」様々な職種があることを知り、仕事のよさや工夫に気付く。 社会：「わたしたちのくらしと商店」商店を営み地域で働く人の学習を通して、どんな努力をされているかを知り、労働の大切さを知る。		国語：「ちいちゃんのかげおくり」相手の立場に立って考え、登場人物の気持ちを読み取る。 社会：「火事のない町を目指して」被災を受けた地域の人たちがうけた差別に触れるとともに、くらしを守る方法について知る。「災害を伴う人権問題」		国語：「わたしの町のよいところ」教科書をもとに、自分たちが住んでいる町のよいところにも気付く。		国語：「モチモチの木」まめたの暮らしや気持ちの変化を読み取る。 社会：「けいさつの仕事と人々の協力」警察の仕事を知るとともに、犯罪をしてしまった人のその後の暮らしぶりを考え、差別について話し合う。「犯罪被害者やその家族」		
	理科：「植物の育ち方　たねまき・葉がふえたころ・花・花がさいた後」やこ「んちゅうの育ち方」で動植物の成長過程を知り、植物の栽培やカイコの飼育などを通して生命尊重を実施する。										
特別の教科　道徳	「特別の教科　道徳」を通して、自由・責任、親切・思いやり、友情・信頼、感謝、生命の尊さ、公正・公平、社会正義、家族愛、勤労、国際理解などを身につけさせる。 「ライラックのさく庭で」：「わたし」とリラちゃんとの交流について考えることをとおして、他国の人や文化に親しむことの大切さに気づき、他国の文化を理解し親しもうとする心情を育てる。「外国人」				「ドッジボール大会」：しゅうへいのの問題点について話し合い、偏見をもたないことの大切さに気づき、誰に対しても分け隔てをしないで公正・公平な態度で接しようとする心情を育てる。「女性」				「つなみてんでんこ―走れ、上へ―」：東日本大震災で被災したときの「ぼく」や周りの人の、行動や気持ちについて考えることをとおして、命を守ることの大切さに気づき、与えられた命を大切にしようとする心情を育てる。		
総合的な学習の時間	児童が発言や体験できる場、交流する活動をたくさんつくり、個性の伸長やたくさんの人と親しむ時間をつくる。 わがまちたんけん：地域にどんな人が住んでいるか、どんな特色があるか調べる。また、「高齢者」「障害者」など様々な立場の人が住み、差別を受けてたり差別があったりすることに気付き、どういった解決方法があるか探求する。「子ども」「高齢者」「外国人」「障害者」										
特別活動	学活：学級や自分の目標を考える。 １年生を迎える会 「なかよし班」　異学年交流を深め、相手の立場に立って思いやる態度を身に付ける。　○なかよし班遊び　○えどスポ（運動会）　○CBC（キャッチボールクラシック）　○お別れ給食		学活：楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任などについて考え、信頼し支え合って実践させる。		学活：話し合い活動を通して、一人一人の意見や考えを尊重し合う態度を身に付けさせる。		えどフェス（展覧会）		学活：楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任などについて考え、信頼し支え合って実践させる。		
その他	地域訪問：家庭との連絡を密にし、児童一人一人の実態を把握する。 いじめ防止週間		あいさつ運動(通年：あいさつを通して、温かい人間関係を養う。	個人面談等：家庭との連絡を密にし、児童一人一人の実態を把握する。			ふれあい月間 いじめ防止週間				

「　　」＝個別的な視点からの取組（末尾の「　」内は人権課題）　⟺＝関連的な指導　▭＝多様性を理解し、尊重し合う態度を育成することを重点とした指導。

令和６年度　江戸川区立江戸川小学校　人権教育　年間指導計画（第４学年）

年間指導計画作成のための留意点（東京都教育委員会発行「『人権教育プログラム（学校教育編）』ｐ14 人権教育の年間指導計画（例）」を必ず参照し作成すること）

○　教科等の目標や内容を踏まえ、その単元や題材全体に関わる人権教育の視点を明確にした上で、指導計画に位置付ける。
○　普遍的な視点からの取組と個別的な視点からの取組を指導計画に位置付ける。
○　各教科・読書科、特別の教科　道徳、総合的な学習の時間、特別活動等における内容について、個別的な視点からの取組を中心に関連を明確にする。
○　児童・生徒が主体的に学習活動に参加し、互いに協力し合って学習に取組めるよう、協力的、参加的、体験的な学習を位置付ける。

	４月	５月	６月	７月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
学級経営	人権教育の目標を踏まえて学級目標を設定する。 児童相互の関係を把握する。	自分の大切さを認識することを中心とした指導 児童理解を、児童相互の望ましい人間関係を築き、児童の学校生活への適応を図る。			他の人の大切さを認めることを中心とした指導 一人一人の個性や能力が発揮できる場や機会を設定することにより、学級の一員として認められているという安心感をもてるようにする。				互いの大切さを認め、助け合えることを中心とした指導 １年間の学校生活を振り返らせ、自己の成長を確かめる。		
各教科・読書科	国語：「はるのうた・あり」命の目覚め、尊さに気付く。	国語：「花を見つける手がかり」モンシロチョウや花など、どの生き物にも命があることに気付く。 体育：「リレー」ルールを守り、協力しながら運動する経験を通して、公平・協力の態度を身につける。	国語：「リーフレットでほうこく」リーフレットの良さを知り、相手に伝える力を養う。 社会：「ごみの処理と再利用」地域で働く人や暮らしをささせる人たちの学習を通して、多くの人に支えられて、生活していることを理解させる。また、清掃員の方への偏見などを考える。		国語：「みんなが楽しめる新スポーツ」高齢者、足の不自由な人など、様々な人にとって楽しめるスポーツを考える。また差別や偏見についても知る。「高齢者」または「障害者」 社会：「水害（地震）からくらしを守る」被災を受けた地域の人たちがうけた差別に触れるとともに、くらしを守る方法について知る。「災害を伴う人権問題」		国語：「ウミガメの命をつなぐ」ウミガメの学習を通して、命の尊さについて理解する。		国語：「手話であいさつをしよう／「便利」をさがそう」耳の聞こえない人への差別や偏見について知るとともに、そうした人にとっても暮らしやすくなる工夫を考える。「障害者」 社会：「世界とつながる大田区」大田区の政策を知るとともに、日本に暮らす外国人が暮らしの中でこまったことを知り、どうするか話し合う。「外国人」		
	理科：「季節と生物（春の始まり・春・夏・夏の終わり・秋・冬・春のおとずれ」動植物の１年の過ごし方を知り、ツルレイシの栽培など生命尊重を実施する。										
特別の教科　道徳	「特別の教科　道徳」を通して、自由・責任、親切・思いやり、友情・信頼、感謝、生命の尊さ、公正・公平、社会正義、家族愛、勤労、国際理解などを身につけさせる。 「かわいくない？」：登場人物がした問題点と、このあとどうすればよいのかについて話し合うことをとおして、言葉づかいの大切さに気づき、インターネットにおける差別について考える。「インターネットによる人権侵害」					「人によって態度を変えるのはだめ？」：学習したことを踏まえて、バリアフリーの設備やサポートの例を知り、自分の身のまわりでは、さまざまな立場の人も公平に、安心して生活できるような工夫がされていることに関心をもたせる。「障害者」			「プロレスごっこ」：いじめに対する他者の考え方にふれ、いじめを解決するためにどうすればよいかについて、多面的・多角的に考える。（「子ども」		
総合的な学習の時間	児童が発言や体験できる場、交流する活動をたくさんつくり、個性の伸長やたくさんの人と親しむ時間をつくる。 みんなが幸せにくらすために：学校をはじめ地域には様々な人が住んでいて、みんなが過ごしやすい、住みやすい工夫がされていることに気付かせる。また、「子ども」「高齢者」「外国人」「障害者」など様々な立場の人が住み、差別を受けているかの性があることに気付きどういった解決方法があるか探求する。「子ども」「高齢者」「外国人」「障害者」										
特別活動	学活：学級や自分の目標を考える。 １年生を迎える会	学活：楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任などについて考え、信頼し支え合って実践させる。			学活：話し合い活動を通して、一人一人の意見や考えを尊重し合う態度を身に付けさせる。		えどフェス（音楽会）		学活：楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任などについて考え、信頼し支え合って実践させる。		
	「なかよし班」　異学年交流を深め、相手の立場に立って思いやる態度を身に付ける。　○なかよし班遊び　○えどスポ（運動会）　○CBC（キャッチボールクラシック）　○お別れ給食										
その他	地域訪問：家庭との連絡を密にし、児童一人一人の実態を把握する。 いじめ防止週間	あいさつ運動(通年：あいさつを通して、温かい人間関係を養う。		個人面談等：家庭との連絡を密にし、児童一人一人の実態を把握する。			ふれあい月間 いじめ防止週間				

「　　」＝個別的な視点からの取組（末尾の「　」内は人権課題）　⟺＝関連的な指導　▭＝多様性を理解し、尊重し合う態度を育成することを重点とした指導。

令和６年度　江戸川区立江戸川小学校　人権教育　年間指導計画（第５学年）

年間指導計画作成のための留意点（東京都教育委員会発行「『人権教育プログラム（学校教育編）』ｐ14 人権教育の年間指導計画（例）」を必ず参照し作成すること）

○　教科等の目標や内容を踏まえ、その単元や題材全体に関わる人権教育の視点を明確にした上で、指導計画に位置付ける。
○　普遍的な視点からの取組と個別的な視点からの取組を指導計画に位置付ける。
○　各教科・読書科、特別の教科　道徳、総合的な学習の時間、特別活動等における内容について、個別的な視点からの取組を中心に関連を明確にする。
○　児童・生徒が主体的に学習活動に参加し、互いに協力し合って学習に取組めるよう、協力的、参加的、体験的な学習を位置付ける。

	４月	５月	６月	７月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
学級経営	人権教育の目標を踏まえて学級目標を設定する。 児童相互の関係を把握する。	自分の大切さを認識することを中心とした指導 児童理解を、児童相互の望ましい人間関係を築き、児童の学校生活への適応を図る。			他の人の大切さを認めることを中心とした指導 一人一人の個性や能力が発揮できる場や機会を設定することにより、学級の一員として認められているという安心感をもてるようにする。				互いの大切さを認め、助け合えることを中心とした指導 １年間の学校生活を振り返らせ、自己の成長を確かめる。		
各教科・読書科	家庭：家庭のあり方を学習する教材を通して、責任や権利と義務を尊重する態度を身に付けさせる。	体育：「リレー」ルールを守り、協力しながら運動する経験を通して、公平・協力の態度を身につける。 理科：「生命のつながり」生命を尊重しようとする態度を身に付ける。	国語：「みんなが使いやすいデザイン」世の中には様々な人々が暮らしていることから、みんなが使いやすいものを考える。	社会：「米づくりのさかんな地域」米作りの苦労を知り感謝の気持ちをもち大切に食べようとする態度を育てる。		社会：「これからの食料生産とわたしたち」食料生産を考えると同時に、食肉加工で働く人のことを知り、仕事にも差別や偏見があることについて考える。「同和問題」	国語：「あなたは、どう考える」発表し合うことを通して表現する力伝え合う力を身に付けさせる。		社会：「情報を生かすわたしたち」これからの情報社会について話し合うとともにSNSなど情報モラルについて考える。	国語：「「子ども未来科」で何をする」未来のことを考えるとともに、子どもの人権について考え差別のない世界について話し合う「子ども」	国語：「大造じいさんとガン」人物の心情を考える教材を通して、自己理解と他者理解の大切さを尊重する態度を身に付けさせる。
特別の教科　道徳	「特別の教科　道徳」を通して、自由・責任、親切・思いやり、友情・信頼、感謝、生命の尊さ、公正・公平、社会正義、家族愛、勤労、国際理解などを身につけさせる。			「よさこいソーラン祭り」：祭りのできた経緯を知るとともに、地域の伝統や文化を受け継ぐことの大切さに気づき、その文化を発展させようとする実践意欲と態度を育てる。（同和問題）		「だれかをきずつける機械ではない」：ネットいじめを防ぐために大切なことに気づき、誰に対しても差別することなく公正・公平な態度で接しようとする判断力を育てる。（インターネットによる人権侵害）			「青い目の人形」：青い目の人形を処分しなかった理由について話し合い、他国の人たちと心を通わせて交流するために大切にすることを考えを、すすんで接しようとする実践意欲と態度を育てる。（外国人）		
総合的な学習の時間	児童が発言や体験できる場、交流する活動をたくさんつくり、個性の伸長やたくさんの人と親しむ時間をつくる。 世界がかかえる問題と現状を知ろう：地球環境問題に対して、現状や原因、解決や身近な取組などについて自分たちが考えていかなければならない問題について総合的に考えさせる。「外国人」または「北朝鮮による拉致問題」				持続可能な社会を目指して：日本における現状を知り、これからの社会を考える際に、高齢者や外国人など差別や偏見なども問題についても話し合う。「外国人」または「高齢者」						
特別活動	学活：学級や自分の目標を考える。 １年生を迎える会 「なかよし班」　異学年交流を深め、相手の立場に立って思いやる態度を身に付ける。	学活：楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任などについて考え、信頼し支え合って実践させる。 ○なかよし班遊び	○えどスポ（運動会）		学活：話し合い活動を通して、一人一人の意見や考えを尊重し合う態度を身に付けさせる。		えどフェス（展覧会） ○CBC（キャッチボールクラシック）			ウィンタースクール ○お別れ給食	卒業式
その他	地域訪問：家庭との連絡を密にし、児童一人一人の実態を把握する。 いじめ防止週間	あいさつ運動(通年：あいさつを通して、温かい人間関係を養う。		個人面談等：家庭との連絡を密にし、児童一人一人の実態を把握する。			ふれあい月間 いじめ防止週間				

「　　」＝個別的な視点からの取組（末尾の「　」内は人権課題）　⟺＝関連的な指導　▭＝多様性を理解し、尊重し合う態度を育成することを重点とした指導。

令和６年度　江戸川区立江戸川小学校　人権教育　年間指導計画（第６学年）

年間指導計画作成のための留意点（東京都教育委員会発行「『人権教育プログラム（学校教育編）』ｐ14 人権教育の年間指導計画（例）」を必ず参照し作成すること）

○　教科等の目標や内容を踏まえ、その単元や題材全体に関わる人権教育の視点を明確にした上で、指導計画に位置付ける。
○　普遍的な視点からの取組と個別的な視点からの取組を指導計画に位置付ける。
○　各教科・読書科、特別の教科　道徳、総合的な学習の時間、特別活動等における内容について、個別的な視点からの取組を中心に関連を明確にする。
○　児童・生徒が主体的に学習活動に参加し、互いに協力し合って学習に取組めるよう、協力的、参加的、体験的な学習を位置付ける。

	４月	５月	６月	７月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
学級経営	人権教育の目標を踏まえて学級目標を設定する。 児童相互の関係を把握する。	自分の大切さを認識することを中心とした指導 自他の大切さを認め、児童相互の望ましい人間関係を築き、児童の学校生活への適応を図る。			他の人の大切さを認めることを中心とした指導 一人一人の個性や能力が発揮できる場や機会を設定することにより、学級の一員として認められているという安心感をもてるようにする。				互いの大切さを認め、助け合えることを中心とした指導 １年間の学校生活を振り返らせ、自己の成長を確かめる。		
各教科・読書科	国語：「パネルディスカッション」テーマについて、立場を決めてディスカッションをする。	社会：「子育て支援の願いを実現する政治」子どもの人権について理解を深める。「子ども」 体育：「リレー」ルールを守り、協力しながら運動する経験を通して、公平・協力の態度を身につける。	理科：「植物の体のつくりとはたらき」生き物の成長と環境を扱う教材を通して、生き物には命があり、大切にしていく態度を身に付けさせる。		社会：「江戸幕府と政治の安定」アイヌの歴史について学び、アイヌの人々が差別を受けた背景を知る。「アイヌの人々」 国語：「ぼくの世界、君の世界」発表し合うことを通して表現する力や伝え合う力を身に付けさせる。	社会：「町人の文化と新しい学問」差別されていた人々の優れた技術や仕事が、江戸時代の文化の発展を支えたことを理解する。「同和問題」	体育(保健)：「病気の予防」HIVやコロナ等の病気について理解する。「HIV 感染者等」	社会：「明治の国づくりを進めた人々」憲法の基本的人権の尊重について理解を深める。「女性」		社会：「世界の未来と日本の役割」世界における日本の立場を理解し、世界平和にかかわる態度を育てる。また日本に住む外国人が受けた差別について考える。（外国人）	
特別の教科　道徳	「特別の教科　道徳」を通して、自由・責任、親切・思いやり、友情・信頼、感謝、生命の尊さ、公正・公平、社会正義、家族愛、勤労、国際理解などを身につけさせる。					「六千人の命のビザ―杉原千畝―」杉原千畝がユダヤ人たちにビザを出す決断をした時の思いについて話し合うことをとおして、外国人にも差別しない心情を育てる。「外国人」			「北海道の名づけ親―松浦武四郎」松浦武四郎が「北海道」の名前にこめた思いについて話し合うことをとおして、郷土の文化を尊重することの大切さに気づくとともに、アイヌの人々への差別について理解する。「アイヌの人々」		
総合的な学習の時間	児童が発言や体験できる場、交流する活動をたくさんつくり、個性の伸長やたくさんの人と親しむ時間をつくる。 世界平和と私たちの役割：人が平和に生きるには、人権が満たされていなければならないこと。互いの人権を尊重しながら共に生きていこうという態度を養う。（外国人）										
特別活動	学活：楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任などについて考え、信頼し支え合って実践させる。 「なかよし班」　異学年交流を深め、相手の立場に立って思いやる態度を身に付ける。				学活：話し合い活動を通して、一人一人の意見や考えを尊重し合う態度を身に付けさせる。 ○なかよし班遊び		移動教室 えどフェス（音楽会） ○えどスポ（運動会） ○CBC（キャッチボールクラシック）				卒業式 ○お別れ給食
その他	地域訪問：家庭との連絡を密にし、児童一人一人の実態を把握する。 いじめ防止週間	あいさつ運動(通年：あいさつを通して、温かい人間関係を養う。		個人面談等：家庭との連絡を密にし、児童一人一人の実態を把握する。			ふれあい月間 いじめ防止週間				

「　　」＝個別的な視点からの取組（末尾の「　」内は人権課題）　⟺＝関連的な指導　▭＝多様性を理解し、尊重し合う態度を育成することを重点とした指導。